

4月のTLG

恒例の桜まつり。会社の前の公園には素晴らしい桜の並木があります。



今年は例年より10日も早く満開を迎えましたが、天気も穏やかで一斉に満開となりとてもきれいでした。



花見酒...欲しいな～！

デザートも楽しみ！

おいしい！

お昼は、みんな公園でお花見食事会です。豪華なお寿司弁当と満開の桜でとても幸せな気分になりました。



僕が亀戸で有名なデザート
★亀戸大判焼き★です

4月を機に気分一新！
新しい制服です

いいね！

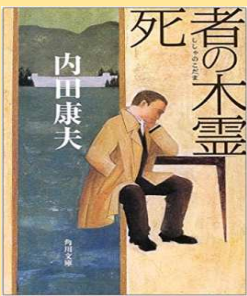
桜咲く...



ベストもスカートもとても着心地が良く気に入ってます。
ルミナスカラーのリボンもかわいいでしょ。
なんだか幸せな気分になって、納期遅れが出てもしちゃいそうですが、
そこは心を鬼にして、頑張るま～す♡♡♡

要因分析と推理小説

経営を支えた3冊



人気推理小説家の内田康夫氏が3月13日に療養先の軽井沢で亡くなりました。83歳でした。人気探偵、浅見光彦シリーズはTVドラマでご覧になった方も多いと思いますが、私にとっては、特別な存在でした。というのも20年以上前、デビュー作の「死者の木霊」を読んだ時の雷に打たれたような衝撃はその後の仕事に大きく影響したからです。「今まで当たり前、常識、と見過ごしてきたちょっとした変化、食い違いが、実は真の原因をつかむ切り口」だということを教えてくれたのです。「物は正直だ、何かが作用して、こういう結果になった、必ず隠れた原因がある」という発想を教えてくれたのが内田康夫氏でした。単に推理小説の中ではありますが、この思考がその後幾多の品質問題や経営問題の中で「なぜ?」「なんで?」そして解決方法を探し出す強い味方になりました。「死者の木霊」は私が管理経営でお勧めする3冊の本のうち1冊です。仮説思考や、要因分析の原点はここにあります。(黙とう)

「大逆転—コンチネンタル航空・奇跡の復活」ゴードンベスン著

この本は、TUIを立ち上げたころ(1998年)の本で、どう経営していくのか悩んでいた時に出会いました。ここに書かれている「前進プラン」はどうすればいいかを簡単明瞭に説明して、私にとって経営指南書の一つでその後の経営で実践し、確実に結果を出すことができました。例えば

- ①目的のためにコスト削減をするのであって、コスト削減が目的ではない。
- ②事態を好転させることより、好調を維持することがはるかに難しい。
- ③常に他社を凌がない限り勝ち続けることはできない
- ④力を合わせてプラン、社員が安心して仕事ができる、幸福にすることなど、素晴らしい名言が私を勇気づけてくれました。



3冊目は「楠木 健・ストーリーとしての競争戦略」

楠木さんは、今は経営コンサルタントとしての講演も多い売れっ子教授ですが、この本を上梓した2010年はまださほど有名ではなく理論も粗削りでしたが、ぐんぐん理論を進めていく勢いがありました。この本により、私が取り組んできた経営が理論的に体系図けられ、またこれからの進むべき道を示唆してくれました。時はリーマンショック後の混沌とした時代でしたが、この本のおかげで、私たちの進む道が間違っていないことを実感し、韓国でのダイカスト投資など、グローバル展開を一気に進めました。現在、ルミナス韓国のR&D部門に掲げているメッセージ「Global Niche Top」はまさにこの本のキーワード(エッセンス)なのです。この本で指摘している「賢者の盲点」こそが、TLGの進む道だと信じて、私たちは闘っているのです。